

みんつど

第二十号

編集
天地
成行

夢中で拾った石たち(北九州のヌさん)



たまにはこんな記念号

提供

村岡鍼灸治療院

阿東つばめ農園 俳句雑誌「山彦」レストハウスたんぽぽ
こころてれび ひだまりの会 株式会社くるとん

みなさま、みんつどのお時間です。ついに二十号！
パチパチパチ。よくやりました。ひとえに読者の
みなさまのおかげです。よくおつきあいくださいま
すね(笑)。

さて、今回は、いっになく写真やイラストが手に
入りづらい中で、天地が言いたいことを多めに入れ
てみました。お気に召さない場合はお伝え願います。
今後の編集方針にも気を配りたいと考えます。

天地は、六月末に初めて食中毒にかかりました。
前々日にマッサージに行つて、ぐざつとしてもらい、

ついに二十号

腰の調子が悪いと一日寝てから、今度はおなかがお
かしくなってきたわけです。そして日曜日の午後に
母に手を触ってもらったら、すごい熱らしく「すぐ
に救急外来行くわよ」と言われて、その日は六時間
病院におりました。詳しいことは中面で触れていま
すのでご覧ください。

オリンピックも始まりました。大リーグ・エンゼ
ルスの大谷選手活躍以外もすごかった前半でした。
みんつど読者の方には少しは、お忙しい日々の中
で一服の清涼剤になってほしいなと思つて毎号少し
は気を配らせていただいています。それが今自分にで
きることなのでしょう。ではスタートです。

生きてるっていいものですね

天地編集長の記念コラム

食中毒になつて思う

2021年6月20日。

この日は朝からトイレに何べんも通い、疲れ果てていた。体は重く、関節も痛い。床に横になつていても息苦しい。

夕方にトイレ帰りに母の部屋に寄る。母に「熱を測ってみたら？」と言われて、体温計をわきにはさんで取り出してみる。四十・五度。

「ん？ 何かの間違いか？」
もう一度測る。変わらない。

「日曜だけと病院行こう」
母は焦って休日診療所に電話する。時間は十六時半を過ぎていた。総合病院の救急外来に行ってくださいとのことだ。タクシーで駆け込む。

すでに人は多く、一時間待ちの札が……。

一時間待つと、診断が始まった。医師はコロナを警戒して、二メートル

離れた距離からいろいろ聞いてくる。しばらく話をしてから外で待っていてくださいと言われて、医師の複数の声が聞こえる。食中毒では？ と聞こえた。まさか、毎日食べている卵かけごはんかとも思った。そういう話もしたからだ。

それからが長かった。計六時間この日は病院にいたのだが、便意がすごい。もよおすから水分補給もできない。

そして、CTスキャンに採血に点滴。

点滴では、頭上にあるブドウ糖入りの液体が袋から一滴ずつ落ちていくのを見ていたら首が痛くなる。一時間以上500ミリリットルの点滴を終わり、また呼ばれ、もう帰れると思ったら、また500ミリリットル追加！

やばい、便意が。何度

も点滴台を動かして、一時的に血を逆流させながら、トイレへ駆け込む。

「おそらく食中毒でしょう。解熱剤と抗生剤などを出します」医師が言う。

その日はNHKの大河ドラマが観られず残念だったが仕方がない。

そして、その日から劇的に改善傾向となる。そして何日かおきに病院へ通うことになった。

病院は朝から人、人、人の嵐。車いすで狭い通路は渋滞し、息切れしながら走る看護師はたまに転ぶ人もいた。待合室で待つ人は、「仕事があるから早くしろ」だの認知症が入った老夫婦は口げんかはおろか、車いすに乗る旦那の後ろ頭をバシバシ叩く妻。言う事を聞かないのはわかるが、人前でやりすぎ！ とか感じることはさまであつた。

私は私で妄想をたくましくしていた。なかなか呼び出されないことを考えすぎてしまい、採血した血液検査の結果の中に、常人では考えられない、スーパーマンのような値を出して、医師が「むむ、これは学会で発表したいからこの患者を入院させて様子をみよう」とか裏で話し合われているのではないだろうか？ とか飛躍して考えていたが、何もそんなことはなかった。

一方で不安なことも。薬を飲み始めてから肝機能の数値がぐーんと伸びてしまった。これには医師も気にしていた。薬を変えてやや改善したところでもう私が、精神科以外ではほかに通うのは嫌だ、という思いから、通院はもういいですとこちらから断ってしまった。

今でも生卵は怖いので食べられなくなった。それだけでなく、多くの生ものには手が出なくなつてしまった。

完治してから、思ったのは、「生きているだけで素晴らしいんだなあ！」ということだけだった。

(三面には欲も出てそれ以外のことも書いていたが)。息すら苦しかったこと、トイレから離れられなかったことなどを考えると体の仕組みの不思議にうたれる。

数日後に思いっきり快気祝いをしたいとパチンコ屋に久しぶりに行く。結果は負けだが、気持ち良かった。

そして最近は朝散歩を始めた。まだ数日だが、よく眠れる。そしてまた朝日が昇るころには起床できるようになってきた。

精神科医で作家の樺沢紫苑という人のユーチューブチャンネルで言っていたことをやっているだけだが、巨体を支えて足が痛くなるが、毎日少しずつ歩数を増やして歩き続けている。

天地のカンピロバクター的思考

ちよつとつまらないかもしれませんが、日々天地が思うことを書いてみますね。二面に引き続いているかもしれません。精神疾患の私は、以前はばりばり社会で働いていました。それを将棋や

碁なんかの盤と社会を例えます。そして私はいつしか、将棋で言うところの詰んで、「参った」(つまりは本質的にも社会的にも死んでしまうということですね)という選択肢に迫られることがありますし

た。しかし、私は自分の駒をあえて「盤外」に逃がすことにしました。それしか方法はなかった。そうしているうちに、自分の王という駒は、妄想や思考癖などにより、どんどん盤外へ一歩ずつ逃

げてしまい、二十年経った今となっては、人生の将棋盤が見えなくなるほどに遠いところについてしまいました。つまりは社会に完全に取り残されてしまったイメージですね。そうする



金光光雄さんのイラストコーナー

と家において、寝て食つての生活になってしまいました。会う人も少なく日々のスケジュールも真つ白、もともと金もないので外に出たところで何をするわけでもないで出ません。家には車もありません。コンビニやバス停まで歩いて数十分。運動もせず、高齢の親に頼つて、ただただ太る日々……。

母に言わせると、「いいじゃないのよ」ということらしいです。でも本質的には自分らしいことはまだまだ足りません。それが何か? 「毎日の居場所づくり」や「息抜きができることの不足」などが挙げられるでしょう。きっと、患者者でなく、自己実現については納得せず、特に勤めてらっしゃる方は、「なんで自分だけこんな目にあわないといけないんだ!」と思つて日々生きづらさを抱えているのでしょうか? 多少は人の想像もつきます。

でも、去年よりはいいのかも? 去年は、株式会社くるとんの藤井康弘さんにお世話になった拙著「わたしは山頭火!」発行や、大橋広宣さんの依頼でケーブルテレビ「こころてれび」に出演、安溪遊地さんによる「み

さて、宇宙の中でぶかぶか浮くように、人生の、社会の「将棋盤」の外にいる私はこれから先どうすればいいのか? 二面で自分らしく楽しくと書いていくではないか! とおしかりを受けそうですが、そこは精神疾患者。実はまるで一貫性がないわけです。どっちもある分裂的思考。そういう「なんやねん」ということもたまには書きますね。

んつど」ネット公開……。

天地成行著「わたしは山頭火!」



くるとん藤井社長 今だから話せる話

出版から8ヶ月が過ぎようとしています。おかげさまで、天地さんのお知り合いの方々を中心に、本をご購読いただいでい

ます。この場を借りて、御礼申し上げます。改めて今、天地さんと本づくりにおける色々を思い出しています。

統合失調症についての知識に乏しく、患者さんと触れ合った経験もなかった私にとって、この本を編集することには、大きな不安がありました。しかし、漠然と心配していたのも仕方ないので、原稿の良し悪しだけを評価し、出版の可否を判断することにしました。正直に言うと、ご病気がご病気だけに結局は考えがまとまらず、途中で

頓挫するかもしれないとも思いました。その一方で、元新聞記者だから、ご病気を客観的に描き、これまでの闘病記とは違う新しいものが生まれる可能性にも期待していました。蓋を開けてみると、一読して「面白い」と思う原稿をいただき、驚きました。深刻な話なのにクスッと笑える。外からはうかがい知れない患者の内面が素直に描かれている。ただその一方で、本人が悩みながら書いただろう元職場の人間関係等のエピソードについては、理解に苦しむ文章が多かったように思います。

さて、記念すべき二十号はいかがでしたでしょうか? 先日わたしは、地元の相談支援事業所に相談に行ってきました。今後の自分の生き方をどうしようか、ふと悩むことがあるからでした。会社や施設への就労は難しいかな? というのが話していて感じました。今後とも発信力を通じて、何らかのことをしていく方がベターのようです。それが知れただけでも行ってみてよかったです。

原井育子さんコーナー⑧

最近ハマっている人が2人いる。洪沢栄一と大谷翔平である。

洪沢栄一の事は、新一万円札の顔ということで、恥ずかしながら初めて知ることになる。今は大河ドラマ「青天を衝け」を観て勉強?をしている。

洪沢栄一の好きな所は、手段がコロコロと変わる所だ! 手段をコロコロと変える事を日本人は、とかく嫌う傾向にあるが、洪沢栄一はいとも簡単に変える!? というより、そのように世から導かれて

いるのかもしれない。論語に「過(あやま)ちを改(あらた)めざる、これを過(あやま)ちという」という言葉がある。過ちを犯していきながら改めないのが、ほんとうの過ちである。過失はやむを得ないが、過ちと気づいたらすぐ改めよ、という意味だ。

洪沢栄一は、この論語を地で行っているように思う。実に痛快だ!!

もう一人は大谷翔平である。彼には驚かされる。

ホームラン33本、投手として4勝(前半)。だれも考えていなかった事をいとも簡単にやりとげる!? ように見える。

また、味方チームにとどまらず、敵チームやいろんな人が大谷翔平を好きになる。まるでドラゴンボールの孫悟空のようだ。

「チャラ、ヘッチャラ……」てね!そしてゴミ拾いの事を彼は、人が捨てた運を拾っているという。ウー—おもしろい!

洪沢栄一にしても、大谷翔平にしても、まあ、明るい!そして素直だ!

彼ら自身も、見ている私たちも楽しい!!どんな世の中であれ、楽しんだものが勝つのかも

編集後記

相談支援

さて、記念すべき二十号はいかがでしたでしょうか? 先日わたしは、地元の相談支援事業所に相談に行ってきました。今後の自分の生き方をどうしようか、ふと悩むことがあるからでした。会社や施設への就労は難しいかな? というのが話していて感じました。今後とも発信力を通じて、何らかのことをしていく方がベターのようです。それが知れただけでも行ってみてよかったです。